

# 郷土研通信



細川善治著『阿寒・摩周の植物』から

発行：てしかが郷土研究会 (Teshikaga Regional Studies Association)  
北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10 (松橋方)

文章責任：松橋 秀和

ウダイカンバ  
アイヌ語：シタツニ  
漢字表記：鶴松明樺  
摩周山麓、美幌峠の中腹に群生が見られる。

## 近況報告

### ・水越武自然写真展

前回の例会で計画書(案)について十分な説明と協議ができていませんでした。補助金申請の期限や水越氏の都合もあることから日程を左記で進めさせて頂きます。

第一回 五月二十八日から  
六月八日(二日間)  
第二回目 六月一八日から  
六月二九日(二日間)

### ふるさと歴史館

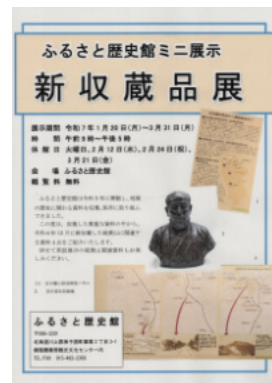
ミニ展示  
(新収蔵資料展)

・安田善次郎像  
川湯地域の方が譲り受け保管してあったものをふるさと歴史館に寄贈されました。明治の初めに道東地方の産業発展の礎をなした人物です。

### ・安田鉄道(釧路鉄道)

解説パネル  
川湯温泉に展示してあつ

たもので、駅舎の管理業務が民間委託になる際に地域の人が譲り受けたもので、ふるさと歴史館に寄贈されました。



### ・町内郵便局 小型印ラリーその後

ラリー完走のご褒美に大門(弟子屈町出身)作「大相撲歴代横綱一覧」をいただきました。作業スペースに額装してあります。



大相撲歴代横綱一覧

### ・小林式本棚の試作品

種市資料を納める本棚を松橋式で試作しましたが強度不足のため、小林氏の書斎にある本棚を参考にしました。試作品にまだ難点があり、改良した本棚を考案中です。

### ・高瀬氏講演録 再校正版

高瀬氏の講演録を小林氏が文字起しをされましたが、その再校正版が配付されました。

## 勉強会

演題  
「アトサヌプリ(川湯硫黄山)と安田砒山鉄道(釧路鉄道)」  
講師：松橋 秀和会長

ふるさと歴史館ミニ展示にあわせて「シリーズ…弟子屈の発展に尽くした人びと① 安田 善次郎」

を種市佐改著『硫黄山と鉄道百年物語』・『阿寒国立公園と硫黄鉱山』(釧路博物館・石川孝織編著)をベースにして解説されました。  
会員にはそれぞれにアトサヌプリに関する情報を持っているようなので、日程を調整して座談会形式で語り合うことを計画します。どんな知見が出てくるか、楽しみです。

## 次回の例会

令和七年三月一九日(水)  
一九：〇〇  
ふるさと歴史館

### 勉強会

講師：金井 秀明 氏  
(元玉川大学農学部技術指導員)  
演題  
仮題  
「川湯の森を見ればカナダ、アラスカの森に行ける」

※弟子屈とカナダ、アラスカ西海岸の植生が酷似していることを解説。

# むかしむか史写真館

No.351



## 美補峠の石碑

弟子屈町内にある文学碑は、山本広氏の『てしかが文学散歩―文学碑めぐり―』に詳しいが、美幌峠の頂上付近に昭和一六年に釧路の佐々木米太郎氏が建立した国府屋東（こくふ さいとう）がこの風景を詠った七言絶句の石碑がある。

山本広氏は美幌町側にあるとみて著作に掲載されなかったのか、と推察する。どつちだこつちだと言うわけではないが、筆者が地

あるが『美幌町史』には碑文の紹介があるので、『美幌町史』に記載のある文章を紹介する。

碑文は  
蒼茫網走曠原平  
久壽里湖匳鏡明  
狩勝嶺頭何足媿  
干皴青蓋北冰瀛

犀東

（そうぼうあばしりのこうげんたいらかにして）

（くすりこれんきょうあきらかなり）

図と合わせると控え目に見ても弟子屈町側にあるようにみえる。

（かりかちのれいとうなんぞひようするにたらん）  
（せんばせいづくるところほくひようのうみあり）  
読み下しは  
「おおおとした網走の高原は開け、屈斜路湖は箱鏡のように光り、そのころ北海道一と言われた狩勝峠とは比べものにならない美しさであり、青さの続く果にはオホーツクの海も見えますよ」

大正八年に「史蹟天然記

念物保存法」が施行され、阿寒地方では「阿寒湖及び同湖のヒメマス並に毬藻、屈斜路湖並にオビラメ」を候補に上申している。一方、大正一〇年度からは内務省衛生局において国民保健と史蹟名勝天然記念物保存の立場から阿寒地方を含む全国の一六候補地を指定したが、これには摩周湖、屈斜路湖は含まれてはいなかった。

明治の末には美幌側古梅、大正の初めには弟子屈側工

ントコマップまでの道路はあったが、弟子屈・美幌間は全通していなかった。ところが、大正九年八月の豪雨による大洪水で弟子屈周辺が悉く流出や破損で孤立状態となり、美幌側から物資の補給を求めざるを得なくなりました。そこで大正七年に釧路土木派出所長として赴任していた永山在兼は、弟子屈・美幌間の未開通部分を二ヶ月間の突貫工事で開通させた。

国分犀東は、「戦前日本の記者、官僚、漢詩人。石川県金沢市出身。新潟、台湾、東京で新聞記者を務めた後、内閣、宮内省、文部省等で地方改良運動、近代社格制度、詔勅起草、文化行政等に関わった（Wikiaediaから引用）」という人物である。

国分犀東が文部省史蹟名勝天然記念物調査会の調査員としてこの地を訪れたのは、永山在兼が美幌峠を全通させたのちから国立公園に指定される九年までの間であろうか。

（松橋 筆）

